

# 残るは

# 全国制覇

平成22年度野球部卒業生一同

第19回IBA-boys  
全国中学生軟式野球大会3位

## 中田中野球部

氏名	位置	学年	氏名	位置	学年
佐々木歩夢	投手	2年	佐々木翔平	内野手	2年
今野 祐也	捕手	2年	船島 優太	内野手	2年
渡部 真叶	内野手	2年	三條 春輝	内野手	1年
菅原 京平	内野手	2年	藤川 紘希	内野手	1年
佐藤 健太	内野手	2年	志田 蒼太	投手	1年
佐藤 雄飛	内野手	2年	佐藤 礼	捕手	1年
佐藤優一郎	外野手	2年	沼倉 隼祐	捕手	1年
熊谷 終	外野手	2年	及川 寛大	内野手	1年
橘 康介	外野手	2年	山内 涼	外野手	1年
遠藤 涼空	外野手	2年	佐藤 那地	投手	1年

※学年は大会出場時

前列右から3番目が佐藤健太  
副将、同5番目が佐々木歩夢  
副将



中田中は、強豪校として名をはせている。部員は「自分たちが野球をできるのは、OB会、親の会や地域の皆さんなどの支援があつてこそ」と、常に感謝の気持ちを忘れず、厳しい練習にも音上げない。中田中野球部のモットーは「人間性が日本一、野球も日本一」。部員らは学業でも、行いでも他の生徒の模範となっている。

残るは「野球での日本一」。佐々木監督は就任直後から「全国制覇」を目標に掲げている。今大会で目標実現に向けて光が見えた。中田中野球部は、関わる人たちが全ての思いを燃料に、光の方向に走り続ける。

準決勝の相手は優勝候補 北海道 SBC（北海道）。長打力と切れ目のない打線、140キロ台と高速スライダーを持つエースと固い守備を武器に、ここまで勝ち進んできた。中田中は惜しいところまで攻め込むも、0-5で3位に終わった。佐々木、佐藤両副将は「全国で勝つには、全てにレベルアップが必要」、佐々木監督は「プレーもだが、全力疾走での選手交代など、見習う点が多々あつた。その分、うちの選手にも伸びしろがある」と前を向く。

初戦のALL三条（新潟）は、緊張から打線がつかまらない。チャンスはあるものの、あと一本が出ず、7回まで0-0でタイブレークにもつれ込む。8回表、無死満塁から、2番志田が3点適時打を放つなど5点を先制。8回裏、先発の佐々木（歩）はインング規制から、佐藤（健）に交代。佐藤はプレッシャーのかかる場面でも落ち着いた投球で、相手を2点に抑え5-2で初戦を突破した。

関東の強豪、西東京修道ベースボールクラブ（東京西）との2回戦は、初回裏に1点を先制するも、4回表に3点を奪われ逆転を許す。主将の佐藤（雄）が県選抜での試合により不在で、守備に落ち着きがない。佐々木監督は「あせらず我慢」と選手に声を掛ける。守備陣がなんとか踏ん張り、無失点で切り抜ける。5回裏、6番今野が2死2、3塁からセン

バツ前に弾き返し、同点の2点適時打。6回裏には、1番佐々木（歩）がセンター前に適時打を放つなど、5点を奪う猛攻を見せ、8-3で勝負を決めた。佐々木監督は「ずるずると流されず、5回表を抑えられたところが成長点」と振り返る。

### 第19回IBA-boys

全国中学生軟式野球大会（公社少年軟式野球国際交流協会主催）は3月17、18の両日、千葉県柏市を会場に開かれ、中田中野球部（佐々木和志監督、部員20人）が3位に入賞した。